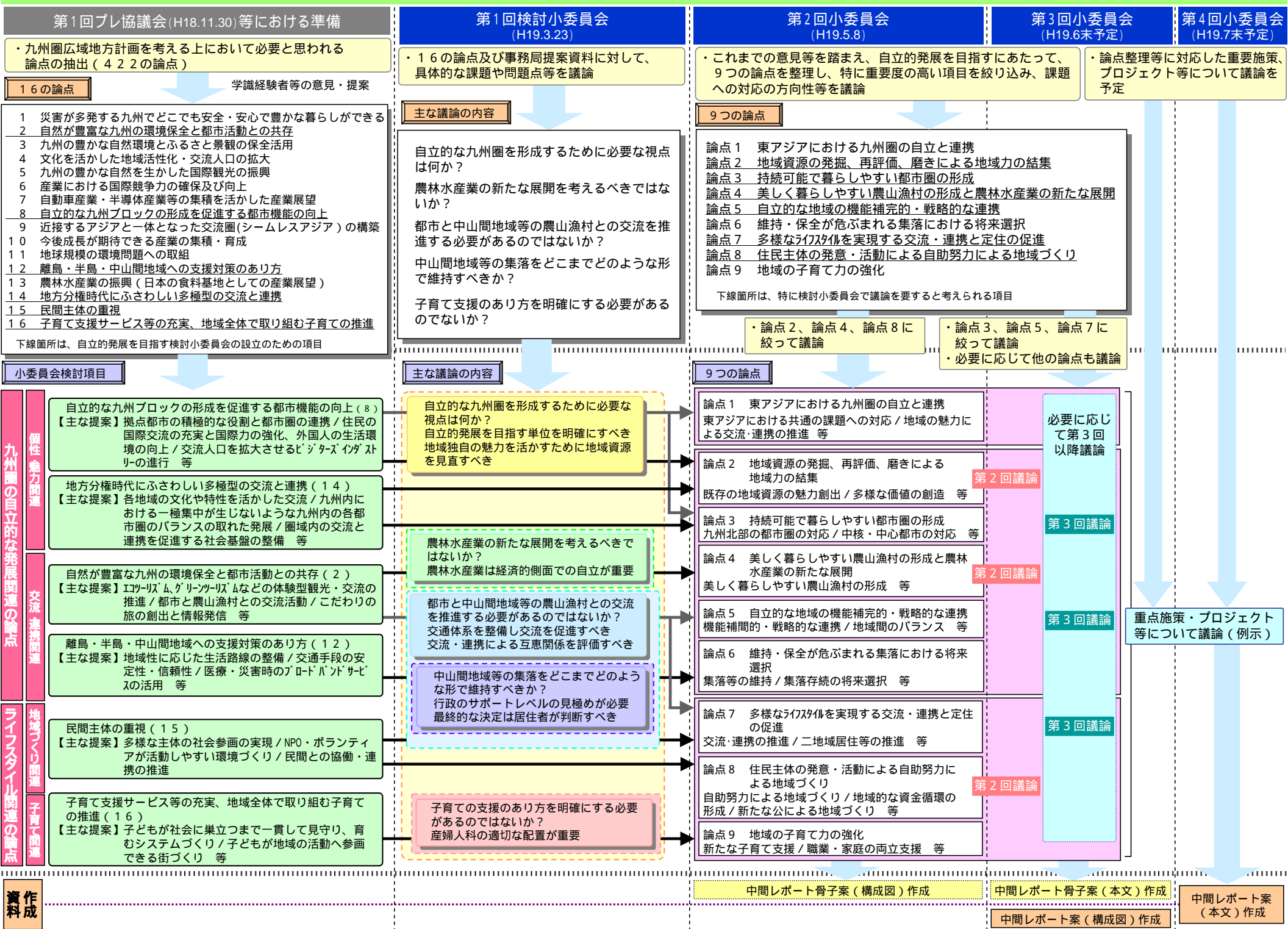


自立的発展を目指す検討小委員会における論点整理の検討経緯等について



自立的発展を目指す検討小委員会における議論の進め方等について

自立的発展の基本的な考え方(案)

自助努力による地域づくり

・九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自ら考え判断し、持続可能な地域を形成する。

第2回議論

両立・推進

自立と連携による地域づくり

・それぞれの地域が人、モノ、情報等の相互に補完、連携し、持続可能な地域を形成する。

第3回議論

目標(案)

地域の実情にあった取組みにより、豊がで持続可能な九州圏を形成する。

また、これら持続可能な九州圏を実現する最小限の機会の均等化(シビルミニマム)の確保を目指す。

その上で、一定のまとまりを持った九州圏として、東アジア等の諸外国と直接結びつくことを目指す。

地域の範囲	現状(傾向)	地域の役割	9つの論点の対応
東アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州圏と隣接し今後とも一層関係が深まること想定</li> <li>著しい経済成長</li> <li>九州圏と日帰り交流圏を形成 等</li> </ul>		<p>第3回議論テーマ 自立と連携による地域づくり</p> <p>論点1 東アジアにおける九州圏の自立と連携</p>
地方中核都市 2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の集積</li> <li>多様なサービス機能が複合的に集積</li> <li>急速な高齢化の進展</li> <li>中心市街地の空洞化</li> <li>都市圏の広域化、複合機能化</li> <li>慢性的な交通混雑 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口、産業等の多様性を持った発展</li> <li>都市機能の集積による多様性の提供</li> <li>九州圏の国際競争力、魅力等を牽引</li> <li>九州圏の多様な人材の活躍の場</li> <li>基幹大学、情報産業等の知的生産活動の場</li> <li>九州圏の交通・情報の要衝としての発展 等</li> </ul>	<p>論点3 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成</p> <p>論点5 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携</p> <p>論点7 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の推進</p> <p>第3回議論</p>
地方中心都市 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口(特に若年人口)の流出</li> <li>少子・高齢化の進展</li> <li>労働力人口の減少</li> <li>中心市街地の空洞化</li> <li>歴史、文化、伝統芸能等への関心の高まり 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口、産業等の特性をもった程よい発展</li> <li>都市のやすらぎや利便性の提供</li> <li>地域の活力・魅力の創出</li> <li>地域の多様な人材の活躍の場</li> <li>多様な歴史、文化の保存・継承</li> <li>地域の交通・経済の要衝としての発展 等</li> </ul>	<p>第2回議論テーマ 自助努力による地域づくり</p> <p>論点2 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の結集</p> <p>論点8 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり</p> <p>論点9 地域の子育て力の強化</p> <p>第2回議論</p>
中山間地域 離島半島等	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州圏に多い離島と半島</li> <li>人口(特に若年人口)の流出</li> <li>少子・高齢化の進展</li> <li>深刻な労働力不足(担い手不足)</li> <li>存続が危ぶまれる集落の発生</li> <li>里地里山の保全の必要性の高まり</li> <li>自然景観、環境への価値の高まり 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な九州圏の形成</li> <li>歴史、文化の多様性の維持</li> <li>美しい景観の継承・保全</li> <li>環境との共生</li> <li>海洋を含む領域等の保全・管理</li> <li>農林水産物の生産</li> <li>地域の子育て環境の創出 等</li> </ul>	<p>論点4 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開</p> <p>論点6 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択</p> <p>第2回議論</p>

1 地方中核都市：地方ブロックの中心で概ね100万人以上の都市(九州圏では福岡市、北九州市)。  
2 地方中核都市：地方圏(東京圏、関西圏、名古屋圏の三大都市圏以外の地域)における県庁所在地や人口が概ね30万人以上の都市。

3 地方中心都市、地方中小都市：地方圏における人口が概ね30万人未満の都市。